

## 八王子市生涯学習審議会会議録（要点筆記）

会 議 名	平成 26 年 10 月 八王子市生涯学習審議会	
日 時	平成 26 年 10 月 30 日（木） 午後 7 時 00 分～9 時 00 分	
場 所	八王子市生涯学習センター 第 2 学習室	
出席者氏名	委 員	三浦真一 浅井揚三 石川智子 小倉艶子 小暮亮 炭谷晃男 小林 正博 碓井恵夫 小宮山博仁 村上ひろみ 岡本夢乃 柴田彩千子 加藤方浩
	事務局	小柳生涯学習政策課長 鶴田主査 川久保主事 新井学習支援課長 村田南大沢図書館長 中村中央図書館長 青木生涯学習センター図書館長
欠席者氏名		
議 事 案 件	≪議題≫ ・ 新生涯学習プランの策定について ・ 第三次読書のまち八王子推進計画の策定について	
	≪報告事項≫ ・ 教育委員会定例会における関連事項について ・ 都市社連協 交流大会の開催について ・ 第 11 回生涯学習フェスティバルの開催について	
配 付 資 料 名	・ 新生涯学習プラン施策体系（案） ・ 都市社連協交流大会 開催要項	
	<b>1. 開 会</b> <b>2. 定足数の確認</b> 出席者 13 名、会議の成立を確認 <b>3. 会議録署名委員</b> 浅井委員を指名 <b>4. 議 事</b>  議事案件 1 新生涯学習プランの策定について  <div style="text-align: right;">説明者：鶴田主査</div> <b>第 1 章 生涯学習プランの概要について</b> 委 員：中核市への移行、市政 100 周年について織り込むべき。 事 務 局：いずれも反映させる。  <b>第 2 章 八王子市の現状について</b> 委 員：「1. 八王子の現状」で人口・世帯数の動態がるが、グローバル社会への対応として、外国人の動態についても示されていると良いのでは。	

<p>会議の内容</p>	<p>事務局：外国人人口が1万人近くを占める近年の社会情勢から、プランに反映させたいと考える。</p> <p>委員：「外国人」という言葉を使うよりも、数年後のオリンピックなど「国際化」の流れの中で記述をした方が良いのでは。</p> <p>会長：オリンピック開催を前にした新プランにおいて、国際化やスポーツに関する記述が必要ではないか。</p> <p>事務局：スポーツに関することは、スポーツ推進計画に委任する部分であるが、スポーツ推進計画では大きな施策の一つとしてオリンピックに向けた内容の記述がある。本プランにおいても、オリンピックに向けた市としての取り組みを載せることも可能である。</p> <p>会長：オリンピックでは、選手村や合宿地として本市を活用してもらおうと誘致をしている。こういったことが生涯学習につながれないか。</p> <p>委員：いちよう塾の受講者数が平成25年度に減っている原因はあるか。</p> <p>事務局：講座数が減っていることが、受講者数の減少につながっているが、1講座あたりの受講者数は例年並みをキープしている。東日本大震災後に受講者が減り、現在回復しつつある。</p> <p>会長：毎年同内容の講座の開催により受講者が減少するのではないか。</p> <p>委員：いちよう塾の講座は、大学に講座開講を依頼し、大学側が講座内容を決め行うため、市民ニーズに合っている講座があまりなく、有料であることも理由の一つではないか。</p> <p>委員：統計の分析で、生涯学習センターの講座や出前講座において「大きな増加」と表現されているが、一部減少している年度もある為、「大きな」とは言い切れないのでは。</p> <p>会長：次回までに調整を。</p> <p>委員：「八王子市の概要」で「ワンランク上のまちづくり」とあるが、市町村は規模でランクが決まるものではないのではないかと。</p> <p>生涯学習政策課：中核市への移行とセットで使われている文言で、フレーズと実際の意味では異なる。</p> <p>事務局：他市と比較した面積や人口でのランクではなく、中核市になることで国や都から様々な権限が委譲され、それを活かすことで市民により良質なサービスを提供するという意で「ワンランク上」と表現しているものであると理解している。</p> <p>委員：統計において、こども科学館が東日本大震災の年も来館者数が減少していないのはなぜか。</p> <p>学習支援課長：震災の年は、生涯学習センターでは週1～2日、休館日を設けていたため利用者数が減少しているが、こども科学館は休刊</p>
--------------	--

	<p>日を設けなかったこと、また、夏休み期間の利用が中心であるためであると考えられる。</p> <p>会長：次回までに調査を。</p> <p>委員：市政世論調査における「生涯学習への取り組み状況」のグラフで、H24年度は大幅に減少しているが分析しているか。</p> <p>事務局：事務局としても、大きく減少していることについて調査をしたが、震災後の社会の影響や調査対象者は無作為抽出で毎年変わることも要素の一つではないかと考える。また、調査結果より現役世代において数値が落ちていることもわかった。市域、年代、回答率、社会情勢など複合的な要因が考えられる。</p> <p>委員：市政世論調査のグラフにおいて、年度と実際のデータが1年ずれているのはわかりづらい。注釈を入れても良いのでは。</p> <p>事務局：注釈は入れず、年度の表示を変えることとする。</p> <p><b>第3章 生涯学習推進のための視点</b></p> <p>委員：「子ども」「現役世代」「高齢者」という年代における区分けはあるが、「障害者」「男女」などについて述べられていないため、結びに「ユニバーサルな生涯学習の推進」の意を述べたらどうか。</p> <p>事務局：第3章の項目を一つ増やし、障害者・男女共同・国際交流について記述するのはどうか。</p> <p>全委員：同意</p> <p>委員：(6)高齢者の健康寿命についての記述において、男女で差が大きいため、男女で分けて記述したほうがよいのではないか。</p> <p>事務局：定年後も活躍している人が多いという意図である。</p> <p><b>第4章 生涯学習プランの推進施策</b></p> <p>会長：事務局案では基本理念については現行プランと同じであるが、このままでよいか、新プラン策定に伴い新しくするか。</p> <p>委員：「あなたと共に」を受けて、施策2を「学ぶ」から「学びあえる」という表現に。図書館で本を借りるだけでも、ひとりで「学ぶ」のではなく、必ずだれかとつながっていることをプランで示したい。</p> <p>委員：施策2では生涯学習体系の整備を、施策3では生涯学習活動の発展とし、人と人とのつながりとネットワークづくりの側面を述べているのでは。環境が整備されていることを前提として、誰かとつながっていることを表現したい</p> <p>委員：「独学」という言葉があるように、ひとりで学ぶ場合もある。「学ぶ」という言葉で、どちらの意も含まれているのでは。</p> <p>会長：基本方針と本文の漢字とひらがなを揃えるべき。</p> <p>事務局：現行プランでは基本方針はひらがな、本文を漢字で記載している。</p>
--	---

会	長：現在の基本理念は「八王子市民」と「八王子の地域」をイメージするが、実際には市民以外も講座受講や図書館利用などで行政サービスを受けている。活動のもととなる本プランで地域や人を限定しないように。
委	員：本文に「八王子に暮らす誰もが」と記述があるが、本市への住民登録の有無にかかわらず、何らかの活動を本市で行っている人を表す別の表現がないか。
委	員：通勤・通学や買い物も含まれるだろう。
会	長：現行プランとの違いを目立たせるとなると、本市だけで完結するのではなく、都や全国に発信するようなプランとしなくてよいのか。
委	員：市民と地域に限定せず、「あなたが主役」や「みんなが主役」にして、基本方針を削ってもいいのでは。
委	員：基本理念を「まなぶ いかす つながる生涯学習」に、基本方針は無くすのはどうか。
事務局	局：本市他部署では市の基本構想のフレーズを理念にし、個別計画との結びつきを明確にしている計画もある。他計画の手法を参考に、事務局案として、基本理念「学びが豊かな心を育むまち八王子」、基本方針「あなたと共に(みんなで)まなぶ いかす つながる」を市の基本構想との結びつきを明確にする一案として提案する。
会	長：読書のまち八王子推進計画においても、周辺市とつながっており、本市のみで完結するものではない。その母体となる本プランでも、「市民」や「地域」の枠を外す必要はないのか。
委	員：基本理念「八王子で実践する生涯学習」。活動そのものは八王子市で行い、それを社会で活かすのではないか。
委	員：基本理念は基本構想をもとにしたほうが良い。「八王子」という表現は八王子市民を指しているのではなく、「八王子市が提供している」という意ではないか。基本方針として「誰もが」を入れたら良いのでは。
委	員：今後の人口減少により定住人口が減少し、今後は通勤・通学など本市を通る人の数（交流人口）を増やしていく行政を行う必要がある。生涯学習活動もその一つである。
委	員：第3章(6)高齢者の力を活かす にで、趣味・教養講座について、現在、他市では趣味・教養に関する講座は必要ないと言われているところもある。しかし、講座を受けた高齢者が、放課後子ども教室や学校支援ボランティアとして、将来的に学んだ成果を活かすなど、目には見えない効果がることを証明するデータを載せることはできないか。
	学習支援課長：カルチャーセンターとは違う認識は持っているが、それを数

値として顕すのは難しい。

事務局：八王子市高齢者活動コーディネートセンター「センター元気」では高齢者ボランティアの養成講座を開催。講座を修了した高齢者が、学校や地域で活躍しているしくみは存在する。数値データはないが、コラムとして、中間支援団体の活動の紹介や出前講座のPRとともに反映することは可能である。

会長：統計が無ければ、事例を紹介していただきたい。

委員：第1章生涯学習プランの概要について、市民団体等への委託、実行委員形式等あるが、行政とそれらの関わりについての記述がない。行政がコーディネートしていることを示した方がよい。また、生涯学習関連事業の一部を載せていただきたい。

事務局：市民協働により、さらに市民の力を活かしていきたいと考えている。そのことはプランの中でコラムとして反映していきたい。

会長：市民が見て理解しやすいよう、写真などで示していただきたい。

議事案件2 第三次読書のまち八王子推進計画の策定について

説明者：村田南大沢図書館長

委員：図書館が目指す姿については理解できるが、実際の蔵書数等、具体的な現状を載せる必要もあるのではないか。読書推進のためのハード面環境作りは重要であると考えている。

会長：前提として本計画は、図書館・学校図書館、書店で購入、地域文庫などすべての読書活動についての計画である。

南大沢図書館長：実際には巻末に、資料編としてデータを掲載する。

委員：基本方針にあるように、家庭地域学校市民地域が楽しめる事業とはどのような事業か。

南大沢図書館長：ブックスタート事業や保育園・幼稚園へ、子ども家庭支援センター、放課後子ども教室、子育てサークルでの読み聞かせやの研修支援を行い、より活発な活動を行ってもらえるよう考えている。

委員：八王子市蔵書数の問題もあるが、近隣との連携で貸し借りが可能な環境であるため、限られた予算の中で無理をして本を購入する必要はないのでは。それよりも現在の蔵書を活用し、読書指導を行うことが重要ではないか。

南大沢図書館長：司書の常駐配置について審議会でも意見があがったが、予算上の問題もある。現在は学校図書館サポーターが各校に週1回派遣できるよう、増員しているところであり、本計画でもそのことを載せている。図書館においても、学校図書館サポーターに対して研修を実施し支援行う。

委員：「児童生徒の不読率は減少している」とあるが、市のデータで

あるか。

南大沢図書館長：全国データである。

会長：他に意見がなければ報告事項にうつる。

《報告事項》

**教育委員会定例会における関連事項について**

教育委員会定例会の議事案件の中から生涯学習関連事項について報告  
(会議次第2ページ参照) 報告：生涯学習政策課長

東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会の開催について

平成26年11月29日(土)あきる野市で開催

内容：各ブロック研修会の報告・基調講演・意見交換

報告：事務局

第11回生涯学習フェスティバルの開催について

平成26年10月18日(土) クリエイトホールで開催

延べ来場者数 約5,100人

三浦会長：次回は11月10日(月)午後7時から生涯学習センターにて開催する。詳細は別途事務局より通知をする。本日の会議は以上をもって終了する。

**5. 閉 会 (午後9時10分)**

上会議録は事実と相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員